

文部科学大臣 萩生田光一 様
文化庁長官 宮田亮平 様

文化庁の、あいちトリエンナーレ 2019 に対する補助金不交付決定の撤回を求めます。

萩生田光一文部科学大臣によると、あいちトリエンナーレの「運営が正しく行われていない」ことが理由としてあげられていますが、運営を妨げたものが一体何であったのかをしっかりと把握してください。「表現の不自由展・その後」展に対する、暴力的な脅迫、政治家たちによる私的見解の公的発言が、「表現の不自由展・その後」を中止に追い込み、あいちトリエンナーレ全体の進行を妨げたのです。

これらの事実を検証もせずに、補助金不交付を決定することは国家暴力であると考えます。

またこの度の文化庁の決定が、国際芸術祭を補助事業に採択した外部審査員の意見を聞かずに、内部で一方的に行われたと明らかにされています。

(毎日新聞 <https://mainichi.jp/articles/20191003/k00/00m/040/224000c>)

このような状況は戦前の軍国主義時代の日本の姿そのものです。

芸術家たち、そしてすべての国民の表現の自由は、決して抑圧されてはいけません。

あいちトリエンナーレ 2019 に対する補助金不交付決定の撤回を強く求めます！

稲葉真以
(2019 年 10 月 5 日)